

報告 REPORT

第36回全国有床診療所連絡協議会総会 福島大会

北海道有床診療所協議会 会長 ^{すずき}鈴木 ^{のぶかず}伸和
北海道有床診療所協議会副会長 ^{さわだ}澤田 ^{かおり}香織

第36回全国有床診療所連絡協議会総会福島大会「令和5年9月2日（土）・3日（日）、福島市」について報告する。

福島県医師会・佐藤武寿会長が、総会大会長となり、「将来を見据えた有床診療所のありかた～認知度の向上と地域医療への貢献～」をメインテーマに開催された。4年ぶりに、完全な対面形式となり186名が参加した。

1日目は令和4年度事業ならびに会計収支決算の報告後、令和5年度はより公的なものにするために、法人化の検討を含む下記8つの事業計画が協議・承認された。

1. 経営状態調査および支援
2. 医学・医療の研鑽と「かかりつけ医」として総合的な初期医療の実践
3. 地域包括ケアモデルとして、かかりつけ医機能の推進、介護事業への参入推進、地域の多職種との連携、各専門医会との連携
4. 働き方改革を進め、医療勤務環境を改善
5. 災害発生防止と十分な対策（スプリンクラー補助金の活用促進）
6. 若手医師の会の活動を活発化し支援
7. 「有床診療所の日」記念行事を継続し積極的な広報活動
8. 一般社団法人「全国有床診療所協議会」および、任意団体「有床診療所医師連盟」の設立をめざす



【総会の様子】

特別講演として、日本医師会・松本吉郎会長から「最近の医療情勢とその課題」について、厚生労働省医政局医事課医師等医療従事者働き方改革推進室・藤川葵室長補佐から「医師の働き方改革とその進捗等について」が行われた。丸の内の森レディースクリニック・宋美玄院長から「SNS、メディアを使った医療機関の成長戦略とピットフォール」、日本医師会総合政策研究機構・江口成美主席研究員から「地域のニーズに応える有床診療所の今後」をテーマに講演が行われた。

「医師の働き方改革最終章～希望するすべての有床診療所が宿日直許可を取るためには～」をテーマにシンポジウムが行われ、福島労働局・田沼久志労働基準部長、(医)エイレイテュエア岡崎バースクリニック・岡崎隆行院長、株式会社TMC経営支援センター・葛西美奈子代表取締役、福島県立医科大学・藤森敬也医学部長(産科婦人科学講座主任教授)が、それぞれの立場でご発言された後、討論が行われた。

和室での懇親会では、日本医師会・松本吉郎会長、羽生田俊参議院議員など多数の来賓により祝辞が述べられ、世界大会2連覇の口笛奏者高木満理子氏の演奏、有名な地酒が多く振る舞われ盛大であった。家庭的な雰囲気の中で終始交流が見られた。職員を連れての慰安旅行のように参加されている先生もおられ、有床診療所（以下「有床診」）だからこそその暖かさを感じた。

来年第37回は8月24日・25日、栃木県において開催される予定である。多くの皆様にご参加いただきたい。



【羽生田俊参議院議員】



2日間を通じ、有床診において多くの社会変化に伴う問題、医療改革に伴う課題が明確になった。特に早急に取り組むべきものとして、下記4つが存続に関わる大きな問題と認識した。

- 1) 2024年3月31日 介護療養病床の廃止、2) 同時に医療療養病床の6:1が終了し4:1となる、3) 2025年6月30日 スプリンクラー設置の経過措置終了し義務化、4) 2024年4月からの医師の働き方改革における宿日直許可の取得は、有床診も例外

でなく、特に産科において緊迫した問題である。日本産科婦人科学会では許可取得を支援していると伺った。医師一人院長でも無縁ではなく、もし何らかの都合で他の勤務医をお願いすることになった場合には取得が迫られる。有床診は大きな転換期を迎えている。講演では、今なお半数の有床診が「今後はわからない」と考えていると報告があった。

有床診が地域包括ケアにおいて果たしてきた役割を再認識し、さらに持続可能な今後の取り組みの方向性を明確に示した協議会であった。



北海道有床診療所協議会の会員は令和5年現在68人となっている。

有床診は年々減少している。当会は、減少してい

るからこそ横のつながりを感じ、情報を共有し、勇気を持って地域に貢献できる施設として、変化を恐れずがんばりたいと思えるような会となっている。当会会員は有床、無床の区別なく、どなたでもご加入いただけるので、ぜひ下記事務局へお問い合わせいただきたい。

北海道有床診療所協議会事務局

〒060-0042

札幌市中央区大通西6丁目

北海道医師会事業第二課内

TEL011-231-1725 FAX011-210-4514

E-mail doyushin@m.doui.jp



北海道内科医会ならびに 日本臨床内科医会入会のご案内

北海道内科医会は、1989年11月の設立以来、地域医療の推進をはじめ会員の専門知識の研修、保険医療の改善・向上など各種事業に取り組んでまいりました。また、当医会と協力関係を持つ日本臨床内科医会は、臨床内科学の発展を図り、医療の向上を目的に1985年に創設された第一線内科医の団体です。自己研鑽のための生涯研修の推進、「かかりつけ医のためのWEB講座」の開催、高血圧・糖尿病・インフルエンザなどの疾患の研究、市民への公開講座を行うなど、臨床内科学へ大きく貢献しております。また、日本臨床内科医会の専門医は取得しやすく、専門医になると1日研修を経て総合診療専門医の指導医として認められます。

今後とも日本臨床内科医会と連携し、厳しい医療環境に立ち向かい、地域住民に質の高い医療の提供体制構築に向け努力をしております。つきましては、北海道医師会会員で内科を標榜されている先生、内科に興味をお持ちの先生におかれましては、当医会ならびに日本臨床内科医会の趣旨にご理解を賜り、ぜひともご加入くださいますようお願い申し上げます。

北海道内科医会 会長 佐久間 一郎

入会申込み・お問い合わせ先 北海道内科医会事務局

〒060-0042 札幌市中央区大通西6丁目 北海道医師会事業第一課内

TEL 011-231-7661 FAX 011-241-3090

E-mail naika-ikai@m.doui.jp

ホームページ <https://hokkaido.japha.jp/>



新型コロナウイルス感染症関連情報

新型コロナウイルス感染症に関する日本医師会からの通知等は、北海道医師会ホームページ「医師の皆様へー感染症情報」に掲載しています。

URL : <http://www.hokkaido.med.or.jp/doctor/infection.html>